

令和4年度栗東市高齢者保健福祉推進協議会（第2回） 議事要旨

1. 日時	令和5年3月30日（木） 14:30～16:00
2. 場所	栗東市役所2階 第1会議室
3. 出席者	<委員> 12名 新木委員、堀委員、岩崎委員、田内委員、辻委員、藤ノ木委員、平田委員、 飯田委員、鈎委員、渡邊委員、渡部委員、清水委員
4. 次第	1 開会 2 市民憲章の唱和 3 あいさつ 4 協議事項 （1）委員の選出について（資料1） （2）第8期介護保険事業計画進捗状況について（資料2） 5 報告事項 （1）第9期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に伴う「介護予 防・日常生活圏域ニーズ調査及び栗東市在宅介護実態調査」の調査集計に ついて（資料3） 6 その他 7 閉会

<要旨>

○開会

○市民憲章の唱和

○会長あいさつ

○健康福祉部長あいさつ

○開催状況の報告

総委員数 12 名のうち、12 名出席。

栗東市高齢者保健福祉推進協議会設置規則第 6 条第 2 項の規定により、会議の成立を報告。

○会議の公開

本日の議事については、特に非公開とすべき事項はないため、会議は公開するものとした。

議事

(1) 委員の選出について

資料1「委員の選出について(案)」を用いて、事務局が説明を行った。

民生委員児童委員の改選により、中村委員に代わり委員5が推薦され、各委員から異議なく、委員5の選出が承認された。

(2) 第8期介護保険事業計画進捗状況について

資料2「第8期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 実績報告」を用いて、事務局が説明を行った。

(委員1)

訪問・通所実績が低い。計画値と実績値の考え方。提供・利用どちらが大きいのか。実態を教えてください。

(事務局)

計画値は、定員とかではなく、あくまでも利用する人の予測人数です。

(委員1)

提供が多いにもかかわらず利用が少ないのか、それとも提供しようと思っているだけで、実際には提供できなかった、ということなのかを教えてください。なぜみんな利用しないのでしょうか。

(事務局)

訪問リハビリについては、計画策定時には、市内に2か所の事業所がありましたが、1か所が人員不足で、訪問リハビリを閉めたという経緯があり、計画値よりも実績値が低くなっていると考えられます。ただ、訪問看護ステーションの方は市内には多くあり、その中からリハビリの専門職が訪問することも可能となっているため、その実数はここではわかりませんが提供は可能となっています。

(委員2)

閉鎖したことも影響しているが、国の介護保険の改正で、訪問リハビリや通所リハビリは、長期に利用していると減算になるので事業所が一斉に利用者を卒業させたということもある。利用を促したいが、市内に事業所がないためケアマネとしても困っているので、そういうところを変えていただきたいと思っている。

(委員3)

小規模多機能の定員数はどのように算出されているのでしょうか。

(事務局)

令和3年度に新たに2つの事業所がオープンしました。新たにオープンして、いきなり満杯になるなどの見通しを立てていなかったということで、令和3年度からだんだん定員に近づいていく見通しで計画値を立てています。

(委員3)

計画値は計画値でいいが、1行説明を付け加えていただくとより分かりやすい。

(委員 2)

居宅介護支援について。ケアマネジャーは減っている状況。このままだと介護難民が出ると思うが、どう考えているのでしょうか。

(事務局)

ケアマネを始め介護人材が減ってきていることは長年の課題として承知しています。南部 4 市で協働して取り組んでおり、今後も、人員の確保に努めていきたいと思います。

(委員 2)

介護に困っているのに支援を受けられてない方がでてきてしまう。このままでは介護難民が出てしまうので、喫緊の課題としてしっかり考えていただきたい。

(事務局)

人員不足については把握しており、これからさらにどのようにできるか考えていきたいと思います。

報告

(1) 第 9 期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に伴う「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び栗東市在宅介護実態調査」の調査集計について

資料 3 『栗東市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』『栗東市在宅介護実態調査』『栗東市介護サービス事業所調査』『栗東市ケアマネジャーアンケート調査』を用いて、株式会社ぎょうせいが説明を行った。

(委員 4)

ケアマネジャーの話がでてきたが、ケアマネジャーは指名することができるのでしょうか。

(委員 2)

制度上は指名は出来ることになっているが、実際には人手不足でできない状況です。

(委員 4)

介護の必要な人が増えてきている。家族構成も変わってきて老々介護になるかと思うと不安。

(委員 2)

ケアマネ調査のケアマネからの市に対する意見でも、書類の煩雑さ等が挙げられており、改善してもらいたい。

(会長)

変えられる部分は変えていただきたい。

(委員 4)

一人暮らしが増えてきた。地域で個人としてなにができるのか。声かけが一番肝要であると考えている。行政にはバックアップしてもらいますが。

(事務局)

来年度からの地域福祉計画等の中で、「声かけ」「あいさつ」を地域の中で実施していくことを盛り込んでいます。支援を受ける人と提供する人の 2 分割ではなく、互いに声をかけながら、健康状態の確認や困りごとを共有し、それを受けて関係機関がどうかかわるかを、今後皆さんとの協力で進めていきたいと考えています。

(委員 4)

声かけは基本中の基本と思うので、よろしく願います。

(委員 5)

認知症について。一人暮らしの認知症の方が増えていると感じている。自分が民生委員をする中で、一人暮らしの方々への認知症かどうかの判断悩んでいる。どう対応していくべきでしょうか。

(事務局)

お近くの包括で対応することになるが、難しい点があれば、また個別に対応させていただきたい。

(委員 6)

地域包括支援センターの認知度がまだ低い。せめて 50%いくように施策を考えていかなければならない。アクションしていったほしい。

(委員 4)

おっしゃる通り。包括の認知度は低い。もう少しやわらかく、上手な形で啓発をしてほしい。

(会長)

今までの周知方法に課題もあると思うので、検討していただきたい。

(事務局)

広報などで周知をしてきましたが、違う形でも取り組んで参ります。

(委員 1)

地域包括の名前がダメでは。それぞれの地域で、各包括が対応するのは良いが、相談したいときにどこに行けばいいのかわからないという問題がある。ワンストップの窓口をつくらないとダメだと思います。

(事務局)

ワンストップ窓口などについては、これまでも議論してきました。市では、社会福祉課に生活支援相談室というのを、去年から設置しています。知名度が低いので、まだ機能しているとは言えませんが、目指すところは福祉の総合的な窓口で、来たら必ずどこかにつなげていく窓口です。市民の認知度を上げていくことが課題であり、今までの広報に加えて、口コミでうまく広げていきたいと考えています。

○副会長あいさつ

閉会